

## 基準 2. 教育研究組織

2-1. 教育研究の基本的な組織（学部、学科、研究科、附属機関等）が、大学の使命・目的を達成するための組織として適切に構成され、かつ、各組織相互の適切な関連性が保たれていること。

### 《2-1の視点》

2-1-① 教育研究上の目的を達成するために必要な学部、学科、研究科、附属機関等の教育研究組織が、適切な規模、構成を有しているか。

2-1-② 教育研究の基本的な組織（学部、学科、研究科、附属機関等）が教育研究上の目的に照らして、それぞれ相互に適切な関連性を保っているか。

#### 【2-1. 事実の説明】

##### 2-1-①

教育研究上の目的を達成するために必要な学部、学科、研究科、附属機関等の教育研究組織が、適切な規模・構成を有しているかの点については、以下のように考える。

本学は、平成20年度に大幅な組織の変更を行った。人文社会学部教育学科を短期大学部の保健科（入学定員100名）および英語科（入学定員100名）の一部と併せて教育学部とし、人文社会学部言語文化学科英語英米文化専攻を短期大学部の英語科（入学定員100名）の一部と併せて同学部英語文化学科とした。そして経営学部を新設した。

教育学部の拡充は、教育福祉方面の専門的職能者養成を重視する本学の方針に沿い、かつ志願者の増大に応えるものである。経営学部と中国語アジア文化専攻の新設、および英語文化学科の拡充は、実社会で活用できる能力を重視するという近時の社会的要請に基づくものである。仏教学科は、地域に応じて言語文化学科日本語日本文化専攻と中国語アジア文化専攻に統合し、アラビア語アラビア文化専攻は、広くアジア文化を学ぶという観点から中国語アジア文化専攻に融合することとなる。なお仏教系大学として、仏教教育は、実践を重視する全学的な基礎教育として今後も維持、発展させる方針にある。

このように平成20年度より本学が有する教育研究上の組織は、文学、教育学、社会学、社会福祉学の領域に新たに経営学が加わり、人文社会学系の大学としては、バランスよく統合され、適切な構成を有している。全体の入学定員についても、短期大学部と併せるとあまり変化はない。専任教育職員数も設置基準上の教育職員数を大幅に上回る充実した組織であり、適切な規模を有しているといえる。

大学院は、現実的・具体的なきめ細かい指導と実践的・経験的な実務指導を取り入れるという方針のもとに、大学の間人福祉学科を承ける教育研究組織として、適切な規模と定員数等を備えている。

附属機関等：図書館、エクステンションセンター、国際仏教文化研究所

##### 2-1-②

教育研究の基本的な組織（学部、学科、研究科、附属機関等）が教育研究上の目的に照らして、それぞれ相互に適切な関連性を保っているかについては、大学全体の教育・研究に関して、学長が主宰する学部長学科長会議において決定された基本方針が大学院研究科

委員会・大学教授会等で説明および審議され、全専任教育職員に連絡、周知され、それぞれ相互に適切な関連性を保っている。

(1) 学部長学科長会議

大学および短期大学部の学部長、学科長をもって組織され、理事、事務局長は必要に応じる。学部長学科長会議は学長が主宰する。これを基に学部間、学科間で連携を保っている。

(2) 大学教授会

大学の専任の教授、准教授、講師をもって組織され、理事、事務局長および学長の指名する者は必要に応じ教授会に出席する。教授会は学長が招集し議長となる。

(3) 大学院研究科委員会

研究科委員会は学長、研究科長、大学院研究科の授業科目を担当する教育職員および学長の指名する若干名の本学の教育職員をもって組織され、理事、事務局長および学長の指名する者は必要に応じ研究科委員会に出席する。委員会は学長が招集し、議長となる。

(4) 各種委員会

全学的な個々の問題に関しては各種委員会が設置されている。また、新たな問題が生じた場合には必要に応じて委員会が設置される。各学部各学科から専任教育職員が選出される委員会は以下の表のとおりである。

平成21年度 各種委員会委員一覧

学 科 委員会	大学院	大 学											
	人文社会学 研究科	仏 教	言語文化				社 会	人間福祉		教 育			経 営
			日 本 語	英 語 文 化 (英語)	アラビア語	中国語アジア		社会福祉	保 育	小 学 ・ 幼 児	中 英 ・ 小 学	保 健	
人 事 (学科長) (コース主任)	近 藤	西 岡	南谷(美)	山 崎	愛 宕	矢羽野	指 田	原(順)	鈴 木	林 田			永 田
										谷 本	井 川	林 田	
キャリア		藤 谷	田 島	城 江	愛 宕	愛 宕	千 葉	和 田	安 部	中 本			村田(利)
宗 教		西 岡	戸 田	三 浦	岡崎(英)	西 岡	中 原	兼 子	村田(夕)	(水)塩見 (木)石田	加 藤	毛 受	羽 路
厚生補導		桃 尾	桃 尾	村 上	菊 池	胡	齋藤(素)	信 田	茂 木	寺 田			立 岡
図 書	慎	村(俊)	藤 谷	松 田	岡崎(桂)	矢羽野	岡崎(桂)	橋 本	茂 木	北 岡			土 谷
人 権・ 同和推進		桃 尾	桃 尾	赤 松	岡崎(桂)	呂	梁	畑	荒 木	黒 田			霍
教 務	近 藤	西 岡	南谷(美)	山 崎	愛 宕	矢羽野	指 田	原(順)	鈴 木	谷 本	井 川	林 田	永 田
教員養成 カリキュラム	近 藤	西 岡	南谷(美)	山 崎	愛 宕	矢羽野	指 田	原(順)		谷 本	井 川	林 田	
										植 田 北 岡			
ファカルティ ディベロップメント	逢 坂		坂 田	神 野		菊 池	山 本	鳥 海 広 瀬	長 谷	植 田	岡崎(英)	松 本	安 永
教員免許更新 講習会実施										井川 植田 川口 北岡 羽多野 林田 (楠本)			

入試・広報	近藤		南谷(美)	山崎		矢羽野	指田	原(順)	鈴木	谷本	井川	林田	永田
			高橋	坂本		川内	石井	上續	荒木	船所		楠本	稲葉
			源	ヨハン		胡	梅原	平川	奥野(孝)				原田(秀)

※平成 21 年 5 月 1 日現在

※併設短期大学の専任教育職員も各科 1 名ずつ委員となっている。

### 【2-1. 自己評価】

長年、単科大学として運営されてきたために、学科単位での組織運営が重視されてきた経緯から、3学部体制になった現在でも、それぞれの学科・専攻ごとに、必要に応じて速やかに教員会議を開催し、それぞれの学科・専攻所属教育職員の間で緊密な情報交換と情報の共有があり、その結果として共通の目的意識を持った学科・専攻の運営を行っていることが評価できよう。大学全体としてはもとより、各学科・専攻の教育職員単位で、学生指導を行うことが可能であるなどの利点もあるが、そのために、学部組織としてまとまりに欠けているという問題がある。各種委員会は学部単位ではなく、全学的組織として構成され、各学科・専攻から委員を選出するために、それぞれの委員会での審議事項などを速やかに学科・専攻レベルへフィードバックした上で、教授会での審議ができることも大きな利点である。このように、学部の枠を超えた委員会組織の存在により、速やかに全学的な取組みを行うことが可能であり、時代の要請に対応して平成 20 年 4 月より「教員養成カリキュラム委員会」「教員免許更新講習会実施委員会」を設置するなど、教育全般にわたる問題に対して積極的に対処している。

### 【2-1. 改善・向上方策】

本学は長年、単科大学として運営され、今まではすべてのシステム・制度等が「大学＝1学部」ということで成り立っていたが、平成 20 年度より 3 学部制としたため、現在、様々な制度等に変更を加えている途上であり、今後なお改善の余地がある。既設学部・学科と新設学部・学科については、相互の連携をより一層強化し、在学学生に十分な対応ができるように配慮していかなければならない。また、募集停止を行った学科・専攻等についても、在学学生が卒業するまでの期間、学生の学生生活全般、教育活動、就職指導等にも充分配慮しなければならない。

## 2-2. 人間形成のための教養教育が十分できるような組織上の措置がとられていること。

### 《2-2の視点》

2-2-① 教養教育が十分できるような組織上の措置がとられているか。

2-2-② 教養教育の運営上の責任体制が確立されているか。

### 【2-2. 事実の説明】

#### 2-2-①

本学のカリキュラムは、「基礎教育科目」「共通教育科目」「専門教育科目」の 3 つの柱からなる。「基礎教育科目」「共通教育科目」が教養教育にあたり、全学生が必修の「基礎教育科目」は、実践行である「仏教 I ～IV」と「聖徳太子概説」および「人権・同和問題論」

からなる。選択科目群を配した「共通教育科目」は、情報処理を含む自然科学分野のⅠ類、外国語のⅡ類、法学やスポーツ、キャリアデザインなど多様な科目を含むⅢ類から構成されている。

教養教育の専任教育職員は、学科と同格の「基礎・共通」に所属しており、学科長が任命されていたがこれを廃し、新たに平成21年度より共通教育科目群の中でⅠ類、Ⅱ類A群・B群に主任を配置した。体育、音楽、情報、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の各主任は担当教育職員および非常勤講師との連絡、調整、テキスト等の検討を通して適切に運用されるべく教務部と連携をとりつつ、教養教育の運営に取り組むこととした。

また「仏教Ⅰ～Ⅳ」については宗教委員会が運営について協議している。海外語学研修の運営は、学生支援センターが担当している。

## 2-2-②

教養教育の多くの科目は、基礎・共通の各主任が科目担当者と定期的に会議を開いて、連携をとり、教務委員会の審議も踏まえつつ運営を行っている。ただし、いくつかの科目で異なる運営法がとられている。

「基礎教育科目」の中心となるのが、建学の精神を学ぶ「仏教Ⅰ～Ⅳ」（通称：礼拝）である。すべての教職員が参加する全学的な授業科目で1,000人以上の学生が一堂に会するという特殊性から、教務部が、仏教学科の教育職員、音楽担当の教育職員、および各学科の教育職員から選ばれた宗教委員とともに、各部署の事務職員の応援を得ながら毎時間運営している。運営のあり方については、教務部担当者と宗教委員からなる宗教委員会で審議される。

「共通教育科目」にある情報教育の科目については、担当教育職員と教務課情報メディア係が、情報処理担当者会議において運用等を検討する。関連授業の授業計画から成績評価までの一連の流れ、およびコンピュータ教室の運用等全般については、教務課情報メディア係が一元的に管理している。「共通教育科目」にある海外語学研修は、学生支援センターが運営し、成績処理は教務課で行われている。

### 【2-2. 自己評価】

「仏教Ⅰ～Ⅳ」としての実践行や多様な教養科目、充実した語学教育や情報教育、キャリア関係科目を揃えており、人材養成の目標として掲げる「智慧の完成」「国際感覚・進取の気風」「社会的実践」を下支えするという点で、本学の教養教育は充実したラインナップを有している。また組織相互の意思疎通は緊密に行われており、全体として、本学の教養教育は円滑に運営されているものとする。

ただ今日、新卒者の教養不足、大学生の学力低下等が社会的な問題となっている。各々の学部学科で専門教育を行う前提として、あるいは学生を社会に送り出す主体として、本学がどのような教養教育を提供すべきなのかを、包括的に構想し運営する組織の必要性を認識している。

### 【2-2. 改善・向上方策】

各分野の科目の充実に向けて、このまま継続して努力していきたい。一方、各々の専門

教育への導入教育や社会人としての基礎的教育として、改めて教養教育が問い直されている。本学でもFD委員会と連携をとりつつ、これを包括的に企画、運営する組織として、「教育改革本部」を設置する。

### 2-3. 教育方針等を形成する組織と意思決定過程が、大学の使命・目的及び学習者の要求に対応できるよう整備され、十分に機能していること。

#### 《2-3の視点》

2-3-① 教育研究に関わる学内意思決定機関の組織が適切に整備されているか。

2-3-② 教育研究に関わる学内意思決定機関の組織が大学の使命・目的及び学習者の要求に対応できるよう十分に機能しているか。

#### 【2-3. 事実の説明】

##### 2-3-①

本学の教育方針等を形成する組織としては、教学会議、教務委員会、学部長学科長会、教授会、研究科委員会、各種委員会が設置されている。(なお、教学会議と学部長学科長会の規程は整備されていない。) 教学会議は毎週、学部長学科長会、教授会は原則として毎月1回開催され、全学的問題の審議と意思決定を行っている。卒業判定をはじめとする学生に関する審議事項は、必ず教学会議・教授会の審議にかけられる。

従来より全学的な組織として、教務委員会が教育研究に関する事項の運営および調整を適正に行うために置かれている。

教務委員会は次に掲げる事項について審議する。

- (1) 教育方法および教育内容に関する事項
- (2) 教育課程に関する事項
- (3) 授業担当および時間割に関する事項
- (4) 教職課程に関する事項
- (5) 教育実習に関する事項
- (6) 教務に係る学則および諸規程に関する事項
- (7) その他教務に関する事項

委員会は教務部長を委員長とし、教務副部長、大学院研究科長、学部長、大学および短期大学部の各学科長で構成されている。また、教務委員会の下部組織として「教員養成カリキュラム委員会」も設置している。

##### 2-3-②

学生の授業関係の要求については、FD委員会が年1回企画・実施する授業評価アンケートで表明された意見を参考にする。アンケートの結果は授業担当者へも報告される。FD委員会は委員会規程によって教務部長を委員長とし、その委員は専任教育職員より指名される。

この他に、学位授与式当日には入試・広報部が学生生活全般の広範囲なアンケート調査を実施する。これは学位授与式当日のため、学生の本音が反映されていると考えられる。さらに、学生支援センター、教務部、キャリアセンターなど日頃から学生に対応をする部

署に対する意見も反映されている。学生および保護者から直接大学に寄せられる問い合わせ、クレーム、要望は担当部署が取りまとめ、内容や重要度に応じて、随時、学長、各部長に伝えられ対応している。学期末における成績評価の内容については、学生の保護者宛てに送付され、随時、学生・保護者からの疑問や問い合わせに対応している。成績表は、担任教育職員にも配布され、学生指導に役立っている。学生からのクレーム等も、担当者がしかなるべき部署と連携して対応できるようになっている。

### 【2-3. 自己評価】

大学の教育研究に関わる意思決定機関の組織と連携および機能については、責任体制が明確であり、設置されている組織の構成・規模は、目的に照らして適切で、相互に連携して運営されていると評価する。教学会議、教授会、学部長学科長会、各委員会が定期的に開催されており、大学の方針は各部署、各教職員に周知徹底されている。

建学の精神である仏教教育については、各学科・専攻のカリキュラムの基本部分として位置付けられ、教育研究に関わる意思決定機関の組織は、その使命・目的に対応できるよう十分に機能している。これらは、本学の教育方針、目的が教育現場に浸透し、学生のニーズに対応できるよう大学全体として取り組んでいることの表れであると評価できる。

学生指導のために、担任制を設け、成績表を配布し、履修上の問題点など大学側が把握した問題点は、担任に告知し、その解決に向けて共に努力することによって学生指導体制を万全のものとしている。そのほか、学部あるいは、各学科・専攻の会議においても、学生情報を共有し合うことによって、問題のある学生を各学科・専攻の関係教育職員が見守り、しかるべく指導できるようにしている。

### 【2-3. 改善・向上方策】

現状の水準に満足せず、現在の取り組みを常に改革発展させていこうとする姿勢を持つことが重要であり、教育研究の諸問題に対する改革はより迅速な対応が必要である。

各学科、各専攻それぞれの教育職員はそのことを自覚し、教育研究の充実や学生満足度の向上を目指す最前線にいるものとして担当部署との連携を心がけるべきであるが、その面での意識改善が望まれると同時に、教授会や各委員会等を通じて得られる学内からの意見、専任教育職員を通じて得られる学外からの要望、学生アンケートを通じて得られる学生からの評価・要望を分析し、本学の教育研究活動全般を、より一層改善・向上させる方策を検討実施していくとともに卒業時の学生の満足度調査も継続して実施していく必要がある。さらに、大学全体の意思決定や意見調整をより迅速に進めるよう徹底していく。

### 【基準2. 自己評価】

本学は聖徳太子の「仏教の精神」を建学の精神とし、この精神に基づいた教育を実践している。本学が有する教育研究組織は大学院、大学、短期大学部および附属機関から成り、それぞれが適切な環境、規模、構成を成し、相互に連携して建学の精神の実現に向けた教育と研究に取り組んでいる。

建学の精神の実践活動としては、授戒、礼拝、授業時の瞑想などを行い、仏教精神の体得に努めている。カリキュラムの編成では、教授会、大学院研究科委員会、教務委員会、

ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下、FD委員会）、教員養成カリキュラム委員会、および各学科・専攻での会議を経て教養科目と専門教育科目の充実を図りながら、同時に学生の要望を尊重して、多彩な授業科目を配している。また、学生への配慮という点では、授業科目以外でも、各自の興味や関心に応じて将来に役立つ資格取得を目指した各種対策講座などもエクステンションセンターを中心に開講している。

学生生活に関しては、授業内容を含めて生活面でもきめ細かな指導を徹底すべく、担任制を敷き、全学生に担任教育職員を配備している。学生には担任であるなしに関わらず、教育職員に気軽に相談できる場として、全教育職員が毎週1回90分のオフィス・アワーを設けている。さらに学生相談室を設置して、そこに交代で臨床心理士資格を持つ専任教員およびカウンセラーが在室し、学生の悩み事などの相談に応じている。このように、学生の多様化に対応できる「面倒見のよい大学」として評価を得ることを目標に、教職員が十分な自覚のもとに努力を重ねている。

### 【基準2. 改善・向上方策】

現時点での今後の課題は以下のとおりである。

- 大学院における教育・研究内容の充実を図り、より高度な専門性を備えた人物の育成を通じて、人間福祉領域における本学の建学の精神の実践をより拡大する。
- 教養教育と専門教育との連動性を高め、多様な学生の学修水準に適応できるように配慮する。
- 多様な学生のニーズに応えることが可能となるように、常にカリキュラムを見直し、必要な検討が迅速に行われ、実行可能となるような各種委員会の活動の活性化を図る。
- 学科・専攻の枠にとらわれることなく、より学際的で統合的な学修が可能となるようにカリキュラムを見直す。